



## 多賀城ではたらく外国人から 日々の暮らしを聞いてみよう!

普段から外国の方を見かける機会が増えているのではないのでしょうか。その中には外国人技能実習制度によって日本に来ている方もいます。

10月19日(土)、多賀城市国際交流協会主催講座「多賀城のはたらく外国人～外国人技能実習生について知ろう!～」が開催され、実習生や市内に事業所を置く受入れ企業(ユニバーサル株式会社、株式会社武蔵野、株式会社斎藤工務店)、宮城県国際化協会からお話を聞くことができました。

実習生は、休みの日はカラオケや買い物をしたり、母国の料理を作ったりと各々楽しんでいるそうです。一方で「ゴミ捨てのルールが難しい」といった悩みもあるそう。母国と比べてルールが厳しかったり、商品の包装が多かったりすることも原因のようです。

受入れ企業は技術指導の他、生活のサポートもしており、「会話の声が大きく、トラブルが起きていると誤解されてしまうこともある」といった習慣の違いによる実習生の苦勞をお話してくれました。

このように、実際に外国の方から暮らしや想いを聞き、どんな人が住んでいるか知る機会があれば、お互いがより暮らしやすい地域になるのではないのでしょうか。

\*外国人技能実習制度とは  
途上国から企業が外国人を受け入れ、働きながら外国人に技術を身につけてもらう制度。「技能実習」の在留資格(最長5年)が与えられ、農業、漁業、建設業、食品製造などを学ぶ。



質問コーナー。左から、進行役の多賀城イングリッシュ・サポーターズのメンバー、ミャンマーからの実習生2名、ベトナムからの実習生3名。



ミャンマーのミルクティーやベトナムの蓮茶を飲みながら交流会。身近な存在として技能実習生のことを知ってからは、言葉の壁を感じずにコミュニケーションをとることができました。



### ヒント from たがさぼPress

たがさぼのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します!

- 2019年10月10日(木)掲載 / 一緒に走って、体も心もぼっかぼか!
- 2019年10月19日(土)掲載 / 「支援金」と「義援金」の違い
- 2019年10月31日(木)掲載 / 「ボランティアバス」でボランティアに行こう!

### “たがさぼPress”とは?

たがさぼスタッフによるブログ。興味があれば「たがさぼPress」へ!  
<https://blog.canpan.info/tagasapo/>



### “tag”のアンケートのお願い

- 今後の誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします!  
また、以下のような情報もお待ちしております!
- 自分たちの団体を取材してほしい
  - ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている
  - こんな話題を取り上げてほしい

### たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

### たがさぼの クリスマス雑貨市



クリスマスの贈りものにおすすめのオーナメント・布小物などの手づくり雑貨やクッキー・パンなどのお菓子の販売、子どもも大人も楽しめるワークショップを行います。出展するのは福祉、障がい者支援、国際協力、子育て支援などの活動を行う団体。うれしい出会いが支援にもつながります。見て・買って・食べて・体験して、楽しみ方いろいろな雑貨市へぜひご来場ください。

- 日時 2019年12月22日(日)午前10時30分～午後2時30分
- 会場 多賀城市市民活動サポートセンター
- 参加料 無料(出入り自由)
- 問合せ 022-368-7745(多賀城市市民活動サポートセンター)

# 外国人にも、みんなにも、やさしい地域を目指して

さまざまな人がいろいろな文化や考え方、想いを持って地域で暮らしています。そうした「さまざまな人」のなかでも、今回は外国人にスポットを当てながら『みんなにやさしいまち』について考えていきます。

同じ地域の中にも  
いろんな考え方や文化を  
持つ人がいるんだね～



## 1 相手を知ることの大切さ

たがさぼでは2019年6月に多賀城で生活する外国の方の目線でまちを見て歩く『外国人とあやめまつりに行って日本文化を体験するツアー』を実施しました。多賀城で外国人支援をする団体や、外国人とのつながりに興味がある市民、協力いただいた企業や所属している技能実習生などが集まりました。

当日は雨のため、あやめまつりには行けませんでした。代わりに多賀城市立図書館、文化センター、史遊館と巡っていき、多賀城の文化を学びながら、参加者同士や各施設の方たちと交流や話し合う機会を設けました。

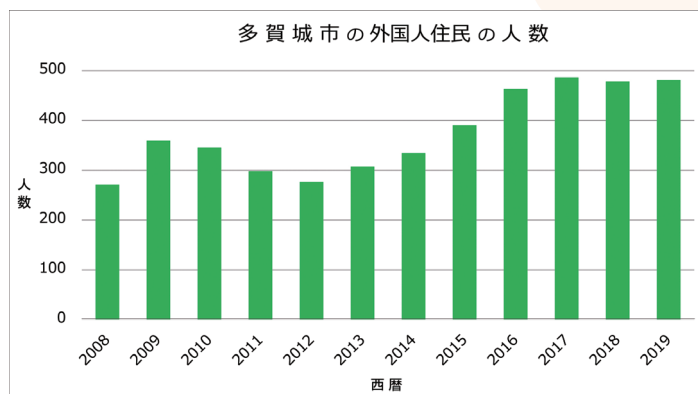
実習生からは、日本語習得の難しさについてのお話が多く、「日本語が分かればもっと仕事がスムーズにできるのに」「病院は実習先の担当の方が付き添ってくれる。でも担当の方にもお医者さんにも症状を上手く伝えられない」「分からないこと、困っていることがあっても、何から話していいか分からない」という不安があるそうです。

企業の方からは「他の企業の技能実習生の対応を知る機会になった」「ツアーを通して地域の団体と交流を持てた」という声、支援団体からは「企業が実習生の受入れ対応でどのようなことに困っているか直に話が聞けた」「団体ができることをあらためて考えるきっかけになった」という声がありました。

ツアーを通してお互いを知り交流を深めていくことで、日々の不安を共有したり、それに対して何かできることはないかと考えてみる機会になりました。



多賀城や塩釜に住む5か国(ミャンマー、ベトナム、インドネシア、中国、日本)の方が参加しました。



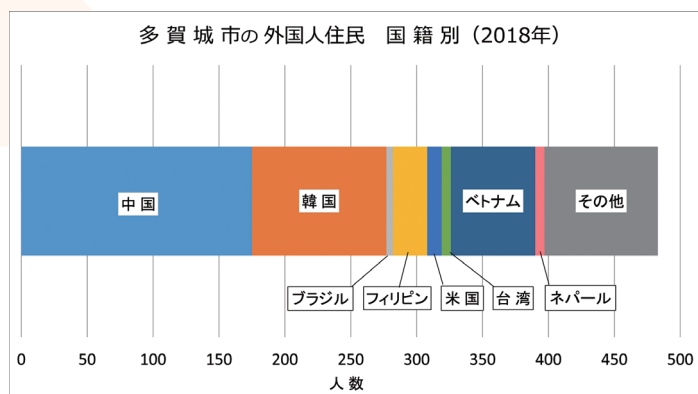
多賀城市に住んでいる外国人住民の人数の移り変わりです。東日本大震災の後に減りましたが、その後は増加しています。

## 2 違いがあるのは当たり前

ツアーを行った背景には、多賀城で生活する外国人を知ることを通して『誰にでもやさしいまち、みんなにやさしい地域』を考えるきっかけにしたという想いがありました。

多賀城でも外国の方が増えており、その人たちによって便利な生活や地域・社会の暮らしが支えられている一面もあります。今後、外国の方とまちで出会うことが当たり前になり、言葉だけではなく文化や価値観、習慣の異なる人が同じ社会で暮らします。

外国人に限らず、相手の違いを否定しないで受け入れることで、時としてみんなのアイデアが生まれます。このアイデアが他にも広がっていくことで、地域だけではなく社会が変わるきっかけになります。このような歩みを多様性(ダイバーシティ)と言い、みんなにやさしい地域の先に待っている地域像につながっています。



国籍としては、中国や韓国の方が多ですが、近年ではベトナムの方も増えてきています。

※グラフのデータには、多賀城市の「人口集計表・住民基本台帳人口集計表(移動別)」、法務省の「在留外国人統計:市区町村別国籍・地域別在留外国人」を使用しています。

What's? //



「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



@tagasapo  
たがさぼのツイッターへのフォローをお願いします!



<https://www.tagasapo.org/>  
たがさぼのホームページはこちらへアクセス!